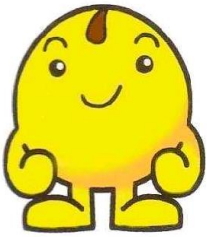


適期収穫により、全量2等以上を目指そう!!



ポイント

- 1 9月末頃に、ほ場ごとの登熟状況を把握し、収穫作業計画を立てる。
- 2 しわ粒発生防止のため収穫適期に達したほ場・団地から直ちに収穫する。
(葉等の損傷が大きいところは、成熟期が早まる可能性があるので注意)

1 当面の栽培管理

(1) 岩船地域の大豆の生育状況

- 多くのほ場で生育は順調ですが、一部のほ場で主茎長が長い等から倒伏が確認されます。
- 虫害等による葉枯症状がみられたところで、強風等により更に症状が進んだ例が確認されます。

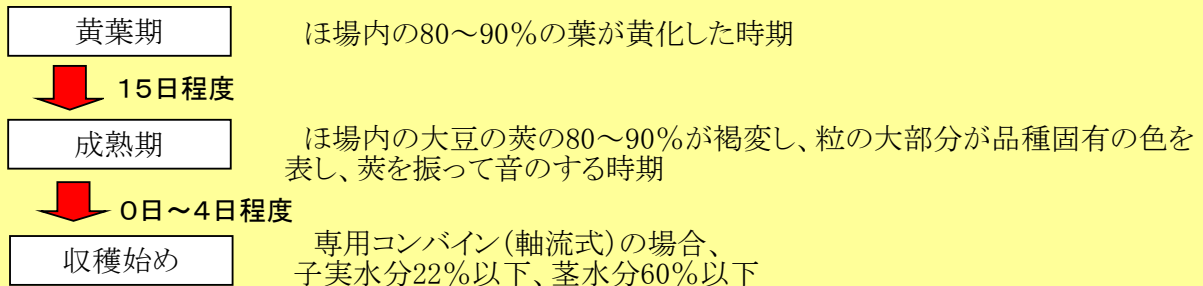
(2) ほ場内の雑草を抜き取りましょう

- 汚損粒発生を防止するため、雑草や青立ち株の除去を徹底しましょう。

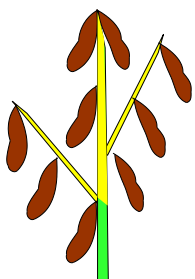
(3) 適期収穫のために、ほ場観察により作業計画を立てましょう

- ほ場ごとに大豆の登熟状況(葉の黄変や落葉の状況)を把握し、収穫適期を迎えたほ場から収穫できるよう、作業計画を立て、収穫作業体制を整えましょう。
- 葉などに被害を受けたほ場では、成熟期が早まるなど、ほ場間で成熟の差が大きくなると予想されます。黄葉期や落葉状況を把握して、成熟の進みに注意しながら適期収穫に努めましょう。
- 収穫が遅れるとしわ粒(亀甲しわ)が増加します。収穫の目安は成熟期以降に子実水分22%以下、茎水分60%以下になった頃です。

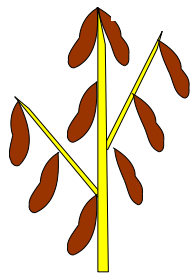
【収穫期までのめやす】



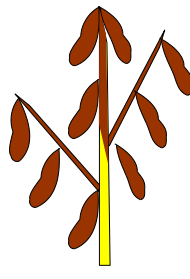
【成熟に伴う茎水分の減少と外観の特徴】



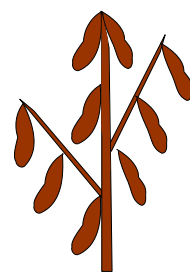
茎水分 70%以上
茎に緑色が残る。



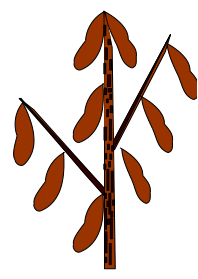
茎水分 70~65%
茎に緑色はないが、全体に黄色である。



茎水分 65~60%
茎に黄色が残り、褐色(莢と同じ色)を呈する。



茎水分 60~50%
茎に黄色は無く、全体に褐色である。



茎水分 50%以下
茎に黒色斑が目立つようになる。

成熟期 → 収穫始め
0日~4日(年により変動)

【生育の外観と収穫期のめやす】

大豆の収穫が遅れないように、9月末頃に大豆ほ場の生育状況を確認し、次の表を参考に収穫時期を検討してください。

観察時の外観の特徴	収穫開始までの日数
落葉が進み、ほ場内の株の5割以上の葉が落葉したと見込まれるほ場	8日
葉の黄化が進み、落葉が始まっているほ場	12日
ほ場内の80～90%の葉が黄化しているほ場(黄葉期)	15日
ほ場内の20%程度の葉が黄化しているほ場	21日

(注)あくまでも目安であり、生育が旺盛だったほ場では更に遅くなります。

2 収穫時のポイント

しわ粒の発生量を軽減するには、成熟期の早いほ場・団地から適期を逃さずに収穫を開始し、作付けほ場全体の収穫期の後ずれを回避することが重要です

(1) 収穫時期

- 茎水分が高いと汚損粒が発生するめ、専用コンバイン(軸流式)では、成熟期以降に子実水分が22%以下、茎水分が60%以下を目安に収穫を開始してください。
- 刈り始めには、被害粒や刈り取りロスを少なくするため、「刈り取り高さ」、「刈り取りスピード」、「脱粒選別・排塵調整」、「汚損粒・損傷粒の発生」のチェックをしましょう。
- 収穫晩限は成熟期後15～18日頃までとしましょう。
- ほ場1筆内で熟期の差が大きい場合は、可能な限り刈り分けを行う。刈り分けができない場合は、ほ場全体の概ね9割以上が適期に達したら収穫しましょう。

(2) 収穫時刻のめやす

- 前日、当日とも晴天の場合→11時から17時まで
- 前日が晴れ、当日が曇りの場合
→11時から15時頃まで
- 前日が雨、当日が晴天の場合
→不可能の場合が多

(3) 汚損粒対策

- 極端に低い位置での刈り取りは避け(刈り取りの高さは10cm程度)、倒伏しているほ場は、「刈り取り位置」と「刈り取りスピード」に十分注意しましょう。
- 収穫時に土をかき込んだ場合は、すぐに作業を止めてエンジンを停止し、土をかき出してください。

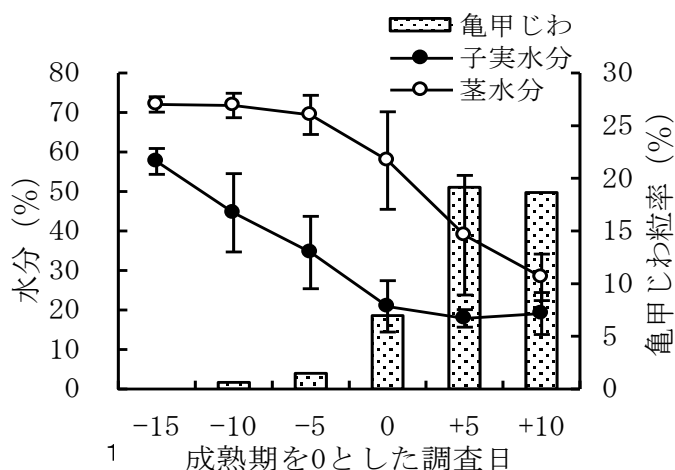


図3 植物体水分及び亀甲じわ発生の推移(2004～2006年平均,縦棒は標準偏差)

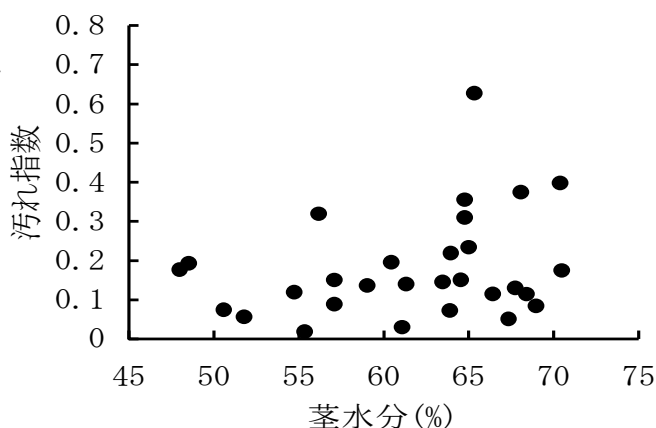


図4 茎水分と汚れ指数(2004～2006年)

注1)汚れ指数=(汚粒度1の粒数×1+汚粒度2の粒数×2+汚粒度3の粒数×3+汚粒度4の粒数×4)/調査粒数

注2)汚粒指数は0.5以上で格下げ要因となる。



雨が多い季節になります。天気予報を確認して収穫作業の計画を立ててください。